

関係各位

有限会社エコ・ライス新潟



釜石の避難所の「要援護者」部屋

全腎協宮本会長と福島、宮城、岩手を激励訪問 緊急支援から長引く避難生活支援へ

岡山腎協からの支援物資、アレルギー対応食品も届ける

○ 透析患者会トップが自ら被災地で激励、ニーズ調査 ○



透析途中で被災して家と車3台を失った患者。車で逃げたが一台後ろの車は津波に吞まれてしまった。

(社)全国腎臓病協議会宮本高宏会長、事務局佐野優さんと被災3県の県腎協と透析病院、避難所を訪問しました。被災3県で被災状況・ニーズが全く異なり、各県・各地域毎のきめ細かい個別に対応が求められていると実感。

そして、食糧支援やガソリン確保などの緊急支援から生活再建支援へとニーズが変化。沿岸部の津波被災地を除けば急ピッチに復旧が進む中、家や車を失った透析患者が置き去られかねない状況下であり、早急な支援対策が求められています。



避難所体育館の一角に「透析患者」が集められ避難している。男女の区別仕切りもありません。

釜石市の小学校の避難所には42名の透析患者が避難生活をしています。食事は一般被災者と同じなので「朝食べて、昼夜は食べない」(一般食は『塩分』『カリウム』などが高く透析患者が大量に食べると心臓発作などを発病：すでに塩釜市の避難所で高カリウム血症により塩釜市2名が死亡)。「足が悪いので1回しかお風呂に入っていない」「洗濯ができない」等、透析患者にとって「食事＝治療」である筈が避難所では出来ない状況。一日も早く仮設住宅等に入居して、透析食を食べられるようになれば、折角、大災害で救われた命が再度危険に晒されています。今後の支援の在り方が重要になります。



緑の里クリニック突戸洋院長から被災直後からの透析医療対応を伺う。被災しながら泊り込みで従事した医療スタッフの話から透析患者への苦言を含め大変参考に。



盛岡で76kg-患者会「ミク」に水、76kg-カルー・76kg-米を届ける。宮本会長にも運ぶ手伝いをしてもらいました。災害時食事制限者支援は病気を越えて運携を！



釜石市の避難所の全景。避難所により大きな格差が。テレビが朝・夕の1-2時間しか見れず、お年寄りなどは動くことなく布団に横になる方が多かった。



釜石市の透析患者会長と事務局長。透析直後に対応してもらった。120名の透析患者中、8名死亡、3名が行方不明。避難所の透析患者支援を行っている。

【 問合せ：(有)エコ・ライス新潟 豊永有(トヨカガユ) 】

〒954-0181 新潟県長岡市脇川新田町字前島 970-100

TEL 0258-66-0070 mobile 090-6458-5535

 e-mail eco-net@nekonet.ne.jp